

## 「朝は訪れる」制作日記

内海由美子

### CD を作りたい

そう思ったのは一体いつの頃からか……。今、完成した CD を前にふと思う。今回の CD 製作は本当にすべてが備えられた。受洗・受按の恵みに与ってから 20 数年がたち、私はいつしかクリスチャンとして、声楽家として、自分自身の信仰の証しとして聖歌の CD を作りたいと思うようになっていた。毎主日、聖餐式で献げる賛美はもちろんのこと、2008 年から始めた「川口チャペルコンサート」の中で聖歌を中心に歌うようになって、その思いはより一層強くなっていったように思う。

聖歌のもつ素晴らしい力と恵みを少しでも届けたい、そう思って HP に聖歌のページを作ったり、映像をつけて YouTube にアップしたりもした。でも、やはり自分で行う録音には限界があり、いつかプロにお願いしてきちんと録音できればいいなと思っていた。焦る気持ちはなかったが、いつかみ心にかなうなら道が備えられますようにと祈り求めるようになった。

### 道は備えられた

2011 年は、まさしくその備えられた年になった。1 月、ある演奏会で CD のチラシをもらった。「コウベレックス」との出会いはそのチラシだった。私は CD を作るにあたり、どうしてもクリスチャンの方をお願いして、礼拝堂で録音したいという希望があった。私の祈りや思いを形にしてもらうには、やはりクリスチャンの方で、神さまのことだけを思い祈りとともに収録するには、礼拝堂しかないと思っていたからだ。ただ私の所属する川口基督教会はレンガ作りの礼拝堂で、響きという点で録音に適しているか正直わからなかった。

ある日、ふと思い立って「コウベレックス」の HP を訪れた。代表の善沢志麻さんのことは全く存じ上げながったが、この方はクリスチャンでは？と漠然と思った。特にそのような

ことは書いておられなかったけれど、リンク先や製作された CD を見て、そんな気がしたのだ。

しばらくして、私はメールしてみることにした。まだ CD を作ると決めたわけでもないのに問い合わせをしてもいいのだろうか少し迷ったが、とにかく私がどのような CD を作りたいかを伝えて費用のことなど聞いてみたいと思った。私が日本聖公会の川口基督教会の信徒であ



ること、2006年出版の『日本聖公会聖歌集』から全曲選曲し、礼拝堂で録音したいこと等、思いつくままに書いてメールした。すぐに善沢さんから返事がきた。

これが私と善沢さんの出会いであった。私はいただいたメールを読んで、正直驚いた。私が漠然と感じていたように善沢さんはクリスチャン（カトリックの信徒）の方だったが、なんと川口基督教会の礼拝堂のこともパイプオルガンのこともよくご存知で、私のまわりの親しい方々ともお知り合いだったのだ。これは神さまが道を備えてくださっているのだろうか、そう思う気持ちもあったが、CDを自主制作するとなると正直なところ、費用もかかる。私は、すぐに決断することはできなかった。

## 実際にお会いして

初めて善沢さんとのメールのやりとりがあってから、数ヶ月が過ぎた頃、お会いすることになった。まだ製作すると決めたわけではないので、実際にお会いしてお話をするのは少し迷ったが、「聖歌や賛美歌の情報交換をしませんか？」という軽いお誘いだったこともあり、大阪でお会いした。

私は自分自身のこと、信仰のこと、CD製作への思いなどお話したように思う。話は弾み、あっという間に時間が過ぎた。この方とCD製作をしてみたいと思ったが、まだ私の中で動き出すことはできなかった。私は「歩むべき道を示してください」と祈り求めている。

## 6月のある日

その日はとても良いお天気で、私は洗濯物を干していた。その時、なぜかふと「CDを作ろうかな」と思った。明るい日差しと爽やかな風が心地よかったことを覚えている。新しいことに向かって動き出してみたい、そう思った。かっこよく言うと、神さまが私に静かにささやいてくださったのかもしれない。

その晩、帰宅した主人にCDを作りたいと話すと、主人は私の背中を押してくれた。そしてCD製作がスタートした。チャペルコンサートで私が聖歌を歌うときに伴奏してくれている辻彩乃さんに私はこの思いを話して、一緒に作ってほしいとお願いした。CDとなると、歌う私よりアレンジを担当してくれる彼女は大変だったが、彼女は、私の思いに全身全霊で取り組むと言ってくれた。嬉しかった。

6月、チャペルコンサートに善沢さんが来てくださり、川口基督教会での録音が可能か、（ホールでない場合は遮音ができないので、さまざまな生活音が入る可能性がある）オルガンとピアノを使うにあたり楽器の状態などプロとしてのアドバイスを下さった。結果として礼拝堂のピアノはアップライトなので、録音には向かないということでピアノ伴奏のものは別の場所で収録することになった。

## 浮き足立っていた私

その頃、私は CD 製作という大きな出来事の前に明らかに浮き足立っていた。そんな私に神さまは目を開かせる声を聞かせてくれた。聖歌を歌うということは祈りである。ましてや CD を作るということは、自分を低くし、ただただ神さまの栄光をたたえるために歌わなければ「主の愛や希望」を届けることは決してできない。浮き足立っていた私は「ガツン」と打たれたような気がした。そして、私の中で何かが変わったように思う。

## 朝は訪れる

具体的なスケジュールを決めるにあたり、一番難しかったのは録音の日程だったが、さまざまな調整をして 11 月末から 12 月にかけて、2 日間で 19 曲を録音することになった。CD のタイトルも決める必要があった。この CD の企画が進む中で、東日本大震災が起こり、大きな痛みと悲しみに日本は包まれた。私はこの CD のタイトルは、「主の愛と希望」を感じるものにしたいと思っていた。何も決まっていなかったが、なぜか私の中でジャケットのイメージだけは、はっきりしていた。私はどうしても十字架を入れたかった。それで、1 枚の写真を候補にあげた。それが今回使っている写真である。ヨーロッパと思われる山の頂きに十字架が立ち、そして朝日が輝いている。その光景に神さまが 創造された自然と希望を感じたのだ。



この写真にあうタイトルはないかと、聖歌集を見ていたとき、聖歌第 2 番に出会った。歌ったことのない聖歌だったが、今までに感じたことのない感覚に打たれた。まさに電撃が走るというのはこのことだ。「朝は訪れる！これだ、これしかない！」と大声で叫びたいほどの衝撃だったのを覚えている。「長い夜にも朝は訪れる」という歌詞には、主の力強い励まし、愛、希望の光を強く感じた。そして、共に立つ仲間を思った。

聖歌第 2 番は第 1 譜、第 2 譜とあり、同じ歌詞で、まったく違うメロディをもつ聖歌だった。口ずさんでみると、第 2 譜の音楽が私の心に響き、これをぜひメインの曲にしたいと思った。

風に目をさまして（聖歌第2番第2譜）

1 風に目をさまして 歌にのせる 新しい感謝

ひびきあう心と声 芽生えあう 命を知る

長い夜にも 朝は訪れる 光とともに 朝は訪れる

2 風に向きあう時 聞こえてくる ささやきと叫び

試みにもがく中に 共に立つ仲間を知る

長い夜にも 朝は訪れる 希望とともに 朝は訪れる

3 風に押しだされて 苦しみをも 新しく担う

主が共におられるから よろこびの世界を知る

長い夜にも 朝は訪れる 命を生かす 朝は訪れる

Words & Music©日本聖公会

## 8月

秋にソロコンサートも決まっていたし、まだ時間の余裕のある夏にできることから準備をしたいと思っていた。まず、選んだ曲すべての使用する楽器と曲順を決めることから始めた。さすがにやってみないとイメージがつかめないなので、何度か辻さんとあわせてみて「この曲はピアノ、この曲はオルガン」という風に決めた。曲の順番は並べてみると、自然と決まったが、ここで決めた順は最後まで全く変わることはなかった。これも神さまが備えてくださったと思っている。

CDの概要が見えてきたので、私がどのようなCDを作りたいのかを伝えるため企画書を作ることにした。「聖歌のCDを作ります」というだけではなかなか私の思いが伝わらないと思ったからだ。企画書の最初の文章にはかなりの時間をかけた。最終的にはこの文章をジャケットの私の文章として載せたが、この作業は自分の思いをまとめるのに大変役立ったと思う。もともとチラシやプログラムの原稿を作るのは好きだったので、お遊び半分でジャケットのイメージもつくり始めた。笑われそうだが、かなり細かいところまで作ってしまい、家族には「もうできたみたい」とあきれられた。最終的にはこのイメージ通りに善沢さんがきれいに仕上げてくださいました。

夏が終わると、一気に忙しくなった。11月の「ハートフルコンサート」が終わって、録音まで10日ほどしかなかったので、できる限り平行して練習した。幸い録音は暗譜ではないし、多少のやり直しはきく。その日の体調と、いかに祈りをこめて賛美できるかがポイントだった。著作権に関する事務的な手続きも進めていたが、聖歌、賛美歌の著作権は一本化されていないので、思ったより大変だった。しかし、この作業の中で出会った方々も多く、私はまた大きな恵みを頂いた。

## 収録 | 目目



11月25日(金)、第1回目の録音を大和高田市(奈良)のさざんかホール(小ホール)で行った。このホールは交通の便は良くないが、ホールの響きもよく、ピアノもスタインウェイ、何より空調が調整できるので録音には適しているという善沢さんのアドバイスによるものだった。一度下見に行って響きを試すと、思った以上に心地良かった。コンサートでは空

調についてはあまり重要視しないが、録音にはかなり影響がある。真夏や真冬でも空調を止めると聞いて、さすがに季節のいい時で助かったと思った。

当日、私と辻さんが11時にホールに着くと、ピアノの調律がもうすぐ終わろうとしていた。録音機材はすでに運び込まれ、セッティングがほぼ終わっていた。コウベレックスから善沢さんともうお一人がいらして、ご挨拶をする。

初めてお会いする録音エンジニアの方(実は、善沢さんのご主人)も本当に素敵な方で、こうして二人でお仕事されているのはいいなあと感じた。録音に際して、その新鮮な状況に緊張しながらもワクワクした。調律が終わるまで少し時間があつたので楽屋で辻さんと共に静かに祈った。神さまがいつも私たちの真ん中にいて下さるように、自分たちのすべてをささげて賛美できますようにと。心からそう思った。

調律が終わるのを待って、リハーサルが始まった。リハーサルといっても私の声や響きにあわせてピアノの位置を決めたり、マイクの場所の調整などを行うのだ。声の調子は悪くなかったが、いつも二人で練習していた礼拝堂とは違う響きなので、どうしても最初はお互いを聞きあってしまい、いつもよりゆっくりになってしまう。だが、さすがに長年二人でやってきただけのことはあり、次第に響きにもなれた。

「では、そろそろ始めましょう」と善沢さん。録音が始まった。「聖歌2番 風に目をさまして、テイク1お願いします」と声がかかる。2~3秒サイレントの時間をとって、前奏がはじまり、終わるとまた2~3秒サイレント。善沢さんの「OKです」という声。

1~2曲録ったあと、じっとしているというのは思った以上に疲れることに気がついた。録音はやり直しがきくとはいえ、妙な動きをして音をたててはいけない。舞台は足の位置をかえるだけでもかすかに「コツン」と音がする。そのことを意識しすぎて、録音してない間にリラックスをするということをおぼえていたのだ。

それに気づいてから、できるだけ録音してないときは体をほぐすよう心がけた。コンサートでは、舞台上で曲と曲の間に体をほぐすことはあり得ないので最初なれなかったが、今日一日の長丁場を乗り切るには必要なことだと実感した。1曲だけどんな風に録音できている

か聞かせてくださった。何とかいけるかなと思った。録音で一番怖かったことは体調もさることながら、気持ちが入りすぎて思わぬところで音程がみだれていたり、響きがそろっていなかったりすることだった。とりあえず10曲、すべてを録り終え休憩となった。私、辻さん、善沢さんご夫妻と話に花が咲いた。楽しかった。

そして録音再開。練習のときもそうだが、リラックスした後なぜか一番流れがでていい感じになる。もちろん最初より疲れているはずなのだが、のってくるという感じだろうか。この日も同様で、結局最後に録ったテイクがほとんど採用となって、今CDに収録されている。ディレクターとして善沢さんは的確にアドバイスもくれた。たとえば聖歌第13番「あかつき輝きいで」。このCDの中ではタイプの違うリズムカルな曲。この曲の特徴をもっといかしてピアノは少し荒々しいぐらいがいいのでは？とのアドバイスを受けて録音したものがCDには収録されている。夕方4時頃、録音終了。楽しく一日目を終えることができた。



## 収録2日目 川口基督教会で



12月2日、オルガン伴奏の9曲を川口基督教会で収録した。司祭様には本当に良くして頂き心から感謝である。何より司祭様にお祈りしていただき、録音を始めることができたことはとても嬉しかったし、力をもらえた。ピアノの収録と違ってパイプオルガンは、歌とのバランスが難しいと聞いていたので、リハーサルに時間がかかるかもしれないと思っていたが、リハ

ーサルもさくさく進み、録音へ。

前回のホールと違って、礼拝堂は遮音することはできない。どんなに扉をしめても、車の

音や隣のガソリンスタンドの音など聞こえてくる。パイプオルガンと歌が始まると何とかいけそうだったので助かったが、サイレントのときに車のエンジン音が入ると使えないので、その時はいったん中断となる。私がどうしても礼拝堂でとお願いしたので、善沢さんにはかなり余計な神経を遣わせてしまったと思う。何度か車の音でストップすることはあったが、概ねうまくいった。



一番印象にのこっているのは、隣のガソリンスタンドの洗車の音。さすがにその時はいったん休憩となった。私、辻さん、司祭様、オルガンアシスタントにきてくれた友人、そしてコウベレックスのお二人と談笑しながら休憩。楽しい時間だった。もちろん真ん中にはイエスさまがいて下さったと感じている。

1日目同様に休憩後、録音再開。一応全曲録り終えた後、もう一度最初から録ったのだが、1曲目の「心を尽くして」はこの最終テイクがCDに収録されている。

私は「心を尽くして」がとても好きで、今回のCDアルバムの1曲目にしたいとかなり前から決めていた。この曲はピアノ伴奏も合うので（YouTube版はピアノ伴奏）どちらの楽器にするか少々迷ったが、このCDを聞いてくださる方が最初に耳にするであろう音は是非オルガンにしたいと思い、今回はオルガンで収録することにしていた。

「CDの1曲目はとても大切です。最初あまり大きな音だと驚かれるかもしれないので、オルガンを手鍵盤だけで始めてみてはどうでしょうか？病院で聞かれる方もおられるでしょうし」と善沢さんが提案してくださった。試してみると驚くほどしっくりきた。歌詞（みことば）の明瞭さが増し、こちらの方がいいということになった。私も辻さんも東北の方を思い、祈り、今回レコーディングに望んだが、病院で聞いて下さる方がおられるかもしれないという発想があまりなく、善沢さんの言葉にはハッとさせられた。19曲の中にはもちろんいろんなタイプの曲があるが、この「心を尽くして」はそっと寄り添うような感じにしたいとずっと思っていた。神さまはまた私に静かにささやいてくださったと思っている。

1曲1曲のエピソードや私の思いは書き出すときりがないが、今回一番強く思ったことは「日本聖公会の聖歌」の多様性だ。もちろん580曲のうち19曲なので、まだまだたくさんあるが、私が今まで感じていた感覚を元に、さまざまなタイプの曲を織り交ぜ組み立てたプログラムに、その特性がはっきり出ていたと感じている。無事2日間で19曲録り終えたときは、言葉にできない感謝にあふれた。



## 収録を終えて

コンサートは演奏を終えると終了となるが、CD 製作は収録してから完成までの約 2 ヶ月間さまざまなお仕事があり、とても楽しかった。まずは 1 曲 1 曲どのテイクを使うか選ぶ作業だ。曲によっては 1 節はテイク 1 がいいが、2 節以降はテイク 2 がいいということもあり、そういう場合は編集でつなぐことも可能だとお聞きして、できるだけ納得のいく形にしたいと私と辻さんは送られてきた CD-R を何度も聞いて選んだ。

この作業で一番驚いたことは、人間の聞こえ方はどんどん変化していくということだ。最初聞いたときは自分の細かい点ばかりが気になったが、回数を重ねているうちに細かいことにあまり耳がいかなくなり、全体の流れを聞いている自分に気がついた。そして 19 曲すべてのテイクを選び、最終的な編集作業となった。編集作業にはさまざまな要素があることも知った。歌と伴奏のバランスを調整したり、私の声も音域によって音量に差が出過ぎないように調整したり、あまり響かない川口基督教会の礼拝堂も残響をつけて、まるで大聖堂のようにすることもできた。声楽家は元来自分の声が響くことに抵抗は少なく、残響があるというのはかなり嬉しいことである。もちろんオルガンも残響があるかないでは印象がかなり違う。正直、大聖堂のような響きにしてもいいのだろうか・・・と少し迷ったが、この CD を聞いた方が教会を、神さまを感じるにはこの響きが必要だと判断した。

礼拝堂に実際にいるときは響き以外にも神さまを感じることはできるが、音だけを切り取って CD に収める時には「響き」が大切な要素となると思ったからだ。編集作業を終え

て、改めて思った。善沢さんなら私の思いを CD にしてくださると最初に思ったことは間違いなかったと。

印刷物に関して、まず悩んだのが「帯」に書く文言である。私の思いや CD の雰囲気は伝えたい、でも歯の浮くような文言を並べる気には到底なれず、私の伝えたいことを短い文章で表現するため、数日を費やした。家族がそんな私を見て「まだ考えてるの？」とあきれたほどだ。最終的には凝った文章ではなく「心からの祈りをこめた賛美の歌をオルガンとピアノの調べにのせてお届けします」という文章にした。

善沢さんに一番お世話になったのがジャケットの表紙である。私がこの写真に強い思い入れがあり、凝ったデザインでなく自然な感じにしたいという希望があったので、私の思いを大切にしてくださったのだが、所詮素人、色校正があがってきて、写真が思いのほか暗いことが気になった。カラー印刷の場合、色は本当に難しい。パソコンの画面でみている色と実際に上がってくる色にはどうしても差があり、その加減が難しいのだ。最終的には善沢さんがきれいに仕上げてください、今の形となった。本当に良かった。

## 灰の水曜日

リリースの日を決めてくださいと言われて、2012年2月22日大齋始日（灰の水曜日）にした。受難の始まり？と冗談を言っていたが、先日の礼拝で大齋節は「自分自身の信仰を見つめなおすとき」というお話を聞いて、まさしく私にとって今年の大齋節はそのような時だと感じている。

CD を聞いて下さった方から思いのほか嬉しいお言葉を頂く。その度に「すべてが備えられたこと」「私自身が一番この CD を通して恵みと力をもらったこと」を実感する。完成した CD を前に心から祈る。この CD がみ心にかなうなら、多くの方々に「主の愛と希望」を届けることができますようにと。

(2012年3月1日)